

令和6年

尾張南支部

災害廃棄物処理のための行政との合同会議

- 日 時：令和6年11月22日（金）午後2時
- 場 所：アイプラザ半田 小ホール
（半田市東洋町）
- 参加者：48名

尾張南支部（都筑 章支部長）は、今年で5回目を迎える「災害廃棄物処理のための行政との合同会議」を開催しました。

同支部は管轄エリアが沿岸部を含むことから「南海トラフ巨大地震」発災時における災害廃棄物処理の迅速な対応を重要課題として、近隣行政と具体的な取組及び連携を推進し、互いに顔の見える関係づくりを合同会議にて図っています。

※参考資料

- 1回目：平成28年2月14日 2回目：平成30年2月16日
 - 3回目：令和1年7月24日 4回目：令和4年4月26日
- 本年度で8年目となり、6支部の中で一番最初に行政と災害廃棄物処理への取組について会議を開催した。

合同会議は中嶋久則副支部長の司会にて始まり、開会の挨拶で都筑支部長は「本日は今年3月に実施



挨拶する都筑支部長

いたしました「半田市災害廃棄物仮置場設置・運営訓練」について、次に「豊明市災害廃棄物仮置場設置・運営訓練」について、それぞれの実施内容を担当者の方に発表をしていただきます。さて、今年

は年明け早々に能登半島地震があり、現在災害廃棄物処理が行われていますが、当支部エリアにおいても南海トラフ地震がいつ起こるかわからない状況です。本日の2市の訓練実施内容の発表が会員各社において有益な情報となりますようお願いいたします。」と述べました。

次に来賓の挨拶では、知多県民事務所主幹（廃棄物対策グループ班長）小久保誠一氏は「本年8月8日に日向灘でM7.1、最大震度6弱の地震が発生し、これを受け、気象庁から南海トラフ地震臨時情報が



挨拶する小久保主幹

初めて発表されました。また、8月27日には蒲郡市にて土砂災害が発生し、9月には能登半島で記録的な大雨により土砂災害や災害被害に見舞われました。立て続けに発生した災害を目の当たりにして、迅速かつ適切な災害廃棄物処理に向けた改正整備の必要性を改めて認識したところです。

愛知県では大規模災害に備え災害廃棄物処理体制の構築を図るため、平成28年10月に「愛知県災害廃棄物処理計画」を策定いたしました。その後、令和4年1月に、昨今の集中豪雨の状況を踏まえた災害廃棄物対応の知見の蓄積により、この計画を改定したところです。本日は半田市と豊明市から「災害廃棄物処理仮置場設置・運営訓練」について話をさせていただけるとのことです。行政としましては、日頃から各事業者の皆様と意見の交換をしながら、災害において直ちに協力いただける体制、また環境を整えておく必要があると考えており、本日の会議は非常に重要なものであると期待しております。」と述べました。

挨拶の後、半田市の発表が始まりました。

「半田市災害廃棄物仮置場設置・運営訓練について」

講師：半田市環境課ごみ減量担当主事 植田大樹氏

1. 実施内容

訓練の実施日は令和6年3月16日（土）午前9時30分から11時30分、訓練場所は半田市一般廃棄物最終処分場、参加機関は半田市（16名）、（一社）愛知県産業資源循環協会（以下、「愛産協」という。）尾張南支部（31名、見学者が15名：知多5市5町）です。



講師の
半田市環境課植田主事

・訓練の項目

①仮置場資機材設置等（前日実施）

尾張南支部会員と半田市職員でライン引き、三角コーンや看板等の設置をして、仮置場のレイアウト通りに設営した。

②災害廃棄物搬入の受付

市民搬入時の受付手順の確認。「災害ごみ搬入申請書」を記入し、荷物の下ろし方の案内、注意事項を説明する。

役割分担では、受付は職員3名ほど、申請書案内、搬入物確認、車両の写真撮影する。搬入は、職員8名（2名×4台）、その中の1名は、受付と搬入の無線連絡を担う。

③災害廃棄物の積み下ろし

市民が搬入した災害廃棄物を、仮置場のレイアウト通りに分別して下すように指示をする。

④災害廃棄物の搬出（尾張南支部にて実施）

仮置場に持ち込まれた災害廃棄物を、コンテナに積み込み大型車両で搬出する。

2. 準備について

・準備資機材

看板（付随物含む。）各16、カラーコーン（付随物含む。）各19、テント1、受付票10、机、いす、筆記具等、ブルーシート及び設置道具、マイクアンプ、誘導棒、ライン引き、決裁板5、無線機4、他
資料作成においては、実施要項、仮置場レイアウト、シナリオ、工程表、看板等



半田市植田主事の発表の様子

また、訓練場所は旧処分場で整備がされておらず、雑草が多く地面が凸凹であったため、職員がローダーで雑草の排除及び土を入れて整地を行った。

3. 振り返り・課題

・所感

初めて仮置場設置・運営の実地訓練を実施し、受付の対応や仮置場のイメージを職員と共有できた。

訓練の企画・実施を通して、「災害時における廃棄物の処理等に関する協定」を締結している尾張南支部と協力関係が構築できた。

今後、複数回の訓練を実施して職員の対応力を向上していく。また、対応部署はごみ減量担当のみならず、環境・墓地の担当も訓練に参加することが望ましい。

・課題等

半田市の一般廃棄物最終処分場の地面が土であるため雨天時の対応が必要

➡敷鉄板の敷設、事前に碎石を入れる等の対策

仮置場には大量の搬入車が来るため、受付から荷下ろしまでの時間を短縮

➡単品積みの車両は、優先的に荷下ろしをする「ファストレーン方式」を導入する。

搬入車両と搬出車両が重なった際の対応

➡一時的に搬入車両を止める等のルール決めが必要

災害廃棄物は初動対応が重要であるため、仮置場は発災後3日以内の設置が必要

➡仮置場運営マニュアルの見直し、尾張南支部との顔が見える関係づくりを今後も継続する。

他には、今年の夏に「令和6年能登半島地震」の災害廃棄物仮置場を視察に伺った際、現地では、今回の訓練で設営したような仮置場のみならず、公費

解体用の仮置場も設営しておりました。

当時の担当者は予期していなかったとのことですが、必要なものであるということから慌ただしく設置をしたそうです。

今後は災害時の予期せぬ現場の状況をできる限り想定し、その場のニーズに応じられる対策を事前に講じていく必要がある、と所感を述べられ発表を終えました。

「豊明市災害廃棄物仮置場訓練の歩みと今後について」

講師：豊明市役所経済建設部環境課
ごみ減量推進担当係長 樋口健太氏

はじめに樋口係長の自己紹介があり、前職は警察官をされており、その経験が今回の災害廃棄物処理の訓練に大きく生かされているとのことでした。

次に、豊明市の概要について話され、災害においては平成12年9月の東海豪雨で被災した豊明市の当時の状況について説明がありました。

環境課では、令和元年3月に災害廃棄物処理計画を策定しており（令和2年10月改定）、同計画内で勅使グラウンド（豊明市沓掛町勅使1-1）を災害廃棄物一次仮置場として定めています。

しかし、当時は災害廃棄物処理計画をしっかりと理



講師の
豊明市環境課樋口係長

解している者がおらず、突発的に発生する災害に計画だけで対応できるのだろうか？という懸念を発端に、発生した災害廃棄物の処理方法は？、災害廃棄物仮置場の運営ノウハウとは？、計画上の仮置場のレイアウトは発災時に対応できるのか？と様々な疑問が生じてきました。

平成25年10月には、「災害時における廃棄物の処理に関する協定」を愛産協と締結していましたが、発災時にはどのように協力していただけるか、またそのための連絡ルートはどうなるのか、判然とはしていませんでした。そのような状況を、当時尾張北支部で理事をされていた中西隆社長にご相談したところ、本市の姿勢に共感をしていただき、愛産協の災害廃棄物処理対策に関する特別委員会委員長の山本浩也氏、また尾張北支部の方々をご紹介いただきました。その後、愛産協の災害廃棄物処理対策特別委員会オブザーバー入野智樹氏、及び尾張北支部の方々の協力の下、実効性のあるマニュアルの作成、また同マニュアルに基づいた訓練の実施をしました。同訓練では、豊明市において、以前から災害時の協定を締結していたトヨタケユニティ（株）（災害時の廃棄物（し尿を含む）収集運搬）、（株）中西（仮置き場における分別協力）にも訓練への参加をしていただき、より実効性のある訓練の計画、開催が可能となりました。

また、訓練を計画するにあたり2パターンを企画し、「魅せる訓練」（広報的効果の側面を強調）と、「実践訓練」（動きや行動パターンの習熟に重点を置く）を考え、目的を定め、適時適切な訓練計画を作成することを心がけました。

・令和3年度の訓練（R4.25）

趣旨：マニュアルに沿って「まずやってみる」

レイアウトを作成し、イメージトレーニングをして、現場での連携について確認をしました。

指揮命令システムを作成し、統制の取れた動きで「魅



豊明市樋口係長の発表の様子

せる訓練」を展開しました。

職員のイメージづくりをしました。

・令和4年度の訓練

趣旨：より「実践的な訓練」へ

情報伝達訓練（R4.11.15）では、①情報収集 ②協力依頼 ③仮置場設置・運営依頼、のフローにて実施しました。

仮置場設置・運営訓練（R4.11.18～19）では、情報伝達訓練の経験に基づき、勅使グラウンドで設置訓練を実施し、翌日に模擬災害廃棄物を使い運営訓練を実施しました。

・令和5年度の訓練

趣旨：実践訓練

訓練の前段階として（R5.10.15）

大脇区において、災害廃棄物の実態、及び日頃からの備え（退蔵品の整理）について、今年度訓練に先行して説明会を行いました。

実践訓練として（R5.11.17～R5.11.18）

勅使グラウンドにおいて、これまでの過去2年間の訓練を踏まえ、17日には設置訓練を、また18日には、大脇区の協力の下、実際の廃棄物を使用し、同区の代表者に参加していただき、搬入のシミュレーションを行いました。軽トラック6台に、廃棄物を積載し、搬入の想定ルートで勅使グラウンドまで来場、搬入の体験をしていただきました。

・令和6年度の訓練（R6.11.16）

趣旨：事前の備えと災害廃棄物の分別ルール

災害廃棄物の分別ワークショップを開催し、机上での分別体験、災害廃棄物とは？、「退蔵品」の整理について学びました。

災害廃棄物（模擬）の分別訓練

訓練の企画・計画時における留意点

・前職の警察官での経験を生かして、「部隊運用」、「指

揮・統制」を基に訓練を計画しました。

- ・現場での通信手段としてトランシーバーの活用、またその有用性について説明がありました。トランシーバーの機種によっては、1kmほど離れていても通信が可能なものもあるそうです。トランシーバーのメリットとして、通話の当事者以外の人、その通話内容を傍受可能な点があります。そのため、トランシーバーを使用することで、通話の当事者間で何が起きているのか、そこにはどのような応援が必要か、また事前の備えとして何が必要か、素早く判断することが可能になります。前職の警察官時代の警察無線通話のノウハウを活用し、訓練のシナリオを組み立てたとのことでした。
- ・「魅せる訓練」か「実践の訓練」か、内容を位置付けする。

その他、現在仮置場となっている勅使グラウンドの一部に液状化が懸念されています。他県での被災時に液状化が起きた場合は鉄板を敷いているとのことから、鉄板等の資機材を所有する企業と災害時の締結をしました。まだまだ手探り状態ですが、発災

会議の様子



時に備えて資機材をご協力いただける企業と締結を進めていきたい、と述べられ発表を終えました。



講演を述べる山本委員長

2市の発表後、山本委員長より「災害時における廃棄物の処理等に関する協定は54市町村と締結しております。

これまでマニュアルは5市の作成に協力させていただき、今年新たに小牧市、岡崎市の作成が始まっています。

私たちの災害廃棄物仮置場設置・運営は東日本大震災から始まり、13年間全国の被災地に赴き復興に向けての支援活動を実施してきました。

その中で言えることは「初動が命」であり、初動の整備は平時の準備にかかっています。本日発表のあった2市とは、マニュアルからリハーサルに至るまで、一緒に作り上げてきたこともあり、初動がかなりスムーズであると感じました。豊明市に関しては、住民を巻き込んでのリハーサルは全国的にも珍しいケースであり、環境省や国立環境研究所からも視察がありました。先ほどの発表にもありましたが、行政職員の方、住民の方、産廃事業者の顔の見える関係づくりは非常に重要であると改めて痛感いたしました。愛産協の6支部は、それぞれに活動を通じて平時または発災時において、皆様のお役に立ちたいと考えておりますので、何かありましたらお声掛けをお願いいたします。本日はありがとうございました。」と講評を述べました。

小野俊之専務理事からは「半田市の植田様、豊明市の樋口様、本日は大変参考になるお話をいただきましてありがとうございました。

災害廃棄物処理のマニュアル作成や仮置場設置運営の訓練は、災害発生時に廃棄物の処理を迅速に行うために実施するもので、そのこと自体が目的ではありません。



挨拶する小野専務理事

災害発生時には、速やかに被害状況を把握するとともに、住民に対して災害廃棄物の搬入方法について周知する必要があり、併せて、私ども愛産協会企業も市町村と協力して、仮置場の設置・運営をすることになると思います。

先日実施された豊明市の仮置場設置訓練を拝見し、また今日の話をお聞きして、指揮命令系統を確立した上で訓練が実施されていることに感動しました。

本日、知多5市5町が集まってよかったと思うことは、例えば東海、東南海地震が発生すると、広域で被害が発生するので、その際には、各市町が協力し合って、また、私ども愛産協会企業も協力して仮置場を設置・運営することになると思いますが、こうした機会にお互いに顔見知りになっていれば災害発生時もスムーズに対応できるということです。

他の支部でもこのような会議を実施することで同様な取組が広まるといいなと思います。」と挨拶を述べました。

閉会の挨拶は尾張南副支部長 瀬戸雅也氏が述べ、合同会議は閉会となりました。

◆災害廃棄物仮置場設置・運営訓練実施状況

・名古屋支部

令和4年度 天子田学区自主防災訓練参加及び災害廃棄物仮置場設置・運営訓練 (R4.7.24)

令和5年度 名古屋市との災害廃棄物仮置場設置・運営訓練 (R5.10.17)

令和6年度 名古屋市との災害廃棄物仮置場設置・運営訓練 (R6.10.22)

・尾張西支部

令和4年度 北名古屋市総合防災訓練参加及び災害廃棄物仮置場設置・運営訓練 (R4.9.25)

・尾張北支部

令和3年度 豊明市災害廃棄物仮置場設置・運営訓練 (R4.2.5)

令和4年度 豊明市災害廃棄物仮置場設置・運営訓練 (R4.11.19)

令和5年度 豊明市災害廃棄物仮置場設置・運営訓練 (R5.11.18)

令和6年度 豊明市災害廃棄物仮置場設置・運営訓練 (R6.11.16)

・尾張南支部

令和6年度 半田市災害廃棄物仮置場設置・運営訓練 (R6.3.16)

・東三河支部

令和6年度 豊橋市災害廃棄物仮置場設置・運営訓練 (R6.11.27)

現在、これまでの災害廃棄物仮置場設置・運営訓練が実施されてきました。

災害廃棄物処理対策に関する特別委員会（山本浩也委員長）は、今後も行政と初動に関する協議を推進し、行政との連携の強化、広域連携の強化、協会の知見の向上、及び情報発信を推進していきます。

令和6年 災害廃棄物処理のための行政との合同会議出席者（順不同・敬称略）

愛知県知多県民事務所環境保全課廃棄物対策グループ	主幹 小久保誠一	オオブユニティ (株)	代表取締役 相木 徹
半田市市民経済部環境課ごみ減量担当	主査 井戸 敏史	(株) 上野清掃社	代表取締役 新井 宝造
	主事 植田 大樹	(株) エイゼン	専務取締役 永田 幹人
	榊原 まい	(株) 日誠	常務取締役 永田 大貴
豊明市経済建設部環境課ごみ減量推進担当	係長 樋口 健太	(株) 知多環境保全センター	営業部長 池田 貴行
大府市市民協働部環境課環境衛生係	統括係長 加藤 雅彦		代表取締役 山下 正裕
知多市環境経済部ごみ対策課	主事 竹田 将人	インセント (株)	常務取締役 森 智道
常滑市市民生活部生活環境課	主任 長田 遙		代表取締役会長 森下 勝己
東海市環境経済部リサイクル推進課	統括主任 手塚 直子	日活合成工業 (株)	代表取締役社長 里山 裕晃
阿久比町建設経済部建設環境課	環境係長 米塚 利樹	豊田ケミカルエンジニアリング(株)	代表取締役 井戸田 理
	主事 新美 尚弘	トーエイ (株)	資源営業部長 大塚 敬功
東浦町生活経済部環境課環境衛生係	主事 北田 裕貴		部長 稲垣 大輔
南知多町建設経済部まちなみ環境課	主査 上野 雄介	アイサン建設 (株)	次長 榊原 健一
美浜町厚生部環境課	主幹兼衛生係長 鈴木 直樹		執行役員 鈴木 賢治
武豊町生活経済部環境課	課長補佐 永田 誠	(株) IMAZ	係長 山口 修
	主査 廣田雄二郎	(公財) 愛知臨海環境整備センター	課長 小嶋 潤勇
一般社団法人愛知県産業資源循環協会 尾張南支部		(株) タツノ開発	課長代理 岩川 誠
(株) 野間砂鋳業所	代表取締役 都筑 章		顧問 中村 穰
	営業部 澤野 友信	木材開発 (株) 東海工場	営業部次長 伊藤 大和
	営業部 竹内 望		所長 辻元 康久
久栄運輸 (株)	代表取締役 中嶋 久則		鈴木 秋巡
協材碎石 (株)	営業部長 瀬戸 雅也	(一社) 愛知県産業資源循環協会	専務理事 小野 俊之
(株) テクア	代表取締役 平村 圭雨		事務局長 小坂 元信
サンコーリサイクル (株)	代表取締役会長 金田 英和		災害廃棄物処理に関する 特別委員会委員長 山本 浩也
	取締役営業部長 森 竜也		